

【花と共に今を生きる】

三枝富久子

私は主人の勤務の関係で四十数年関西に住まいし、かねがね故郷に帰りたいという希望をもっておりました。この程その念願がかないましたのを機会に、今まで積み上げてきたものを、生涯の生きがいにと生け花教室を持ちましたところ、同じ趣味を持つ方が集まってくださり、年齢的にはすでに六十歳を過ぎた方が殆どですが皆、生き生きとお稽古に励んでいます。そして、自の作品を写真にとり、花の名前を書きとめ、前向きな姿勢でがんばっておられます。

春は花に、夏は葉に、秋は果実に、冬は枝にとそれぞれの特長を生かして共に勉強、研究しながら日々過ごしております。

現在高齢化が進んでいくなか、健康で今を一生懸命生きながら、いろいろなことに目を向け毎日を新鮮な気持ちで生活することは、ほんとに生きる力を与えてくれ、それぞれの生涯学習という意義を持つことと思います。

毎月の広報を拝見する度、大勢の方々が自分に合った生きがい、勉強を見つけ取り組んでおられることに頭が下がります。

これからも友人達と情報を交換しながら、地域の方々とも意見を交え、少しでも生きがいのある生活が持てるよう、大きく外にも目を向け、残る人生を共に頑張っていきたいと思っております。



生涯学習通信 生涯学習推進会議調査・啓発部会

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【菊を育てる】

都留愛菊会 副会長 小池佑二

私が都留愛菊会会長森嶋好男様より菊花の手解きを受け、都留市文化祭への出品を勧められてから早や十五年になるうかと思えます。現在は、大菊三本仕立てを中心に、盆栽菊造りにも挑戦しています。

色といい、容姿といい、日本的な風格まで備わった花は他に見えないのではないのでしょうか。その魅力に取り付かれてしまい、用土、挿し芽、仕立て方、水やりなど良い作品を目指せば目指すほど奥の深さを感じて、益々味わいのある趣味であることに気が付きます。

冬場はあまり手が掛かりませんが、ほぼ年間を通じて気配りの必要がありますが、気楽な趣味として完全に生活の一部に根付いています。

愛菊会では年に一度秋の文化祭に会員の力作が出品されます。三本仕立て、懸崖、お城造り、近年では千輪、小菊まで幅広く、その美しさに「ワー」という見学者の感動の声を聞きまします。その時が出品者の心が最高になごむ瞬間でもあります。

菊造りは難しいのではと思われがちですが、そんなに難しいものではないと思います。身近に指導してくださる人がいれば菊造りは容易に楽しむことができます。

愛好家同志、親睦を深め熱のこもった菊談義に花を咲かせると時の経つのも忘れてしまいます。同会では菊苗の交換や提供も心掛けていますし、生涯学習グループなどへの指導や展示会場のレイアウトの工夫、また、公共施設への作品の貸し出しなども検討しているところです。

皆さんも、見て楽しむ菊から、造って感動する菊造りを体験してみませんか。生涯学習の一つとして都留愛菊会への参加をお勧めします。

